

戸田市議会における総務常任委員会は、年間活動テーマを「公共施設等の現状と今後の対応について」とし、5月10日京都市立京都御池中学校と11日静岡県焼津市東益津公民館を視察しました。

京都市立京都御池中学校は、京都市役所がある大きな通りに面しており交通の利便性に優れた立地条件です。京都市内では、昭和33年をピークに子どもの数が減少していることから小中学校一貫校による再編が進む中、御池中学校周辺では地元で結成された「新中学校設立委員会」が設立され、PFI方式により平成18年に7階建ての中学校が建設されました。中学校児童生徒数は、約1,000人規模(平成19年から小中一貫校5・4制への変更により、小学6年生も含む)。学校中央に小さな校庭がありますが、「体育は大変です」とのことで、部活動は他校に通っています。施設内2階から7階が中学校の教室や体育館、プールなどが設置されています。その他、乳幼児保育所(1階2階の一部スペース)、高齢者のサービス(1階)の他、イタリアンレストラン、ベーカリーや宝石店といった商業施設(1階、賑わい施設)、観光用トイレ、自治会・消防分団施設(1階)、オフィススペース(6階、7階ですが、生徒増により現在は教室に転用)、防災備蓄倉庫等(地下1階)で構成されています。PFI方式をとった経緯は、学校建設と施設整備と管理が一体的に行われることで、財政的負担の軽減が挙げられましたが、他の自治体での事例では、ずさんな建設による問題が発覚していることに触れ、検証が必要との見解でした。

財政難や人口減少といったことを理由に、つめこみ過ぎているのではないかと感じ、「民間保育所における乳幼児や幼児と児童生徒の活動時間が異なるのでは。活動に問題はないのでしょうか」と質問したところ、教頭先生が「保育所の隣に職員室があり、赤ちゃんの泣き声が聞こえることもあるが、慣れてきている。」とのことでした。また立地条件や教育方針等で、人気が集まり、マンション建設が進み、今では児童生徒数が増加しているため、教室不足にならないか心配しているといった話がありました。

東益津小学校・東益津公民館の複合施設整備の経過は、小学校の改築と公民館の改築を併せ、耐震基準を満たす東校舎に公民館を移転・改築することとなりました。小学校の教室部分と公民館は防犯用の扉で分かれています。図書室は共有スペース(本は、学校図書と公民館と分けられています)です。家庭科室や図工室、音楽室、パソコン室等は、公民館講座に開放し、市民から親しまれているとのこと。一見、無駄のない取り組みですが、公民館機能としては限られているため、授業とスケジュールが重ならないよう配慮していました。

複合施設は、公的または民間の様々なサービスを一カ所に集め、合理的な施設に思われがちですが、教育環境に馴染まないと感じました。また公民館のような公的サービスは、より身近にあるべきと考えますが、施設が一カ所に集められることで(図書館や体育館等の削減)、利用できなくなる方が増えるのではないかと懸念されます。

総務常任委員会 むとう葉子